

新庄に 幸せもたらす 福雀

山形県立新庄北高等学校定時制
笹有華(2年)・青柳凜音(2年)
・佐々木碧衣(1年)



1 福雀とは何か？

「福雀」は昭和初期に初代・野川陽山氏が発案したクルミ工芸品です。野川氏によって最上共生青年会の会員に製作方法が伝えられ、福雀作りは新庄町の人々の副業となりました。最盛期には東京のデパートでの製作販売や万国婦人子供博覧会、全国青年創作副業品展覧会に出展され、新庄名産として好評を得ます。しかし、現在は製作・販売は途絶え、福雀を知っている新庄市民は年々少なくなっています。

2 研究の目的—福雀の盛衰と復活計画—

- ①新庄名産といわれた福雀の盛衰の経過を調査し、福雀に関わった人々の動きと想いを明らかにします。
- ②福雀に込められた先人の想いを継承し、新庄市を活気づける名産品として復活させます。

3 福雀の盛衰と担い手

年	経緯
1931(昭和6)年	・初代野川陽山がクルミを使用した工芸品として福雀を発案。 ・小野恵敏を中心とする最上共生青年会に製作が任せられ、製作者が70人以上になる。
1932(昭和7)年	・最上共生青年会委員会により実用新案登録申請が行われる。(9月25日)
1933(昭和8)年	・最上共生青年会総会において小野恵敏に販売を委託。 ・福雀300個がアメリカに輸出される。(4月17日) ・福雀の製作講習会が開かれ、東京の三越デパートでの製作販売が行われる。 ・万国婦人子供博覧会に出展。 ・小野が第6回全国青年創作副業品展覧会に福雀を出展。
1934(昭和9)年	・積雪地方農村経済調査所落成式の招待者に福雀が記念品として贈られる。 ・第7回全国青年創作副業品展覧会で福雀が10位。
1935年(昭和10)年	・年間売上が12,000円を越える。 ・第8回全国青年創作副業品展覧会で福雀が3位となり、宮内省御買上となる。 ・宣伝・販売を進めていた小野恵敏が亡くなる。(8月)
1930(昭和10)年代	・戦争の影響もあり、製作者が急激に減少し、販売店が1軒となる。
1960年(昭和35)年	・植樹祭(5月)で昭和天皇に献上される。
1960(昭和40)年代	・戦後の民芸品ブームで脚光を浴びる。
1977年(昭和52)年	・新庄市青年海外派遣団の中国への土産とされる。
現代	・田中人形店の閉店により生産・販売が途絶える。

昭和初期の担い手:小野恵敏(孫造)

人々を豊かにするために「福雀の新庄か、新庄の福雀か」と言われる程、福雀の宣伝と販売に力を注ぎましたが、戦争の影響と私が病気で死んでしまったため、福雀の製作・販売は衰退してしまいます。



小野恵敏(けいびん)
『故・小野恵敏氏の霊に捧ぐ』より

新庄名産を守るため...

昭和後期～平成初期の担い手:田中父子

最上共生青年会の一員であった私は新庄名産を守るため、経営する人形店(田中人形店・人形のタナカ)で福雀の製作・販売を続けました。



田中栄一氏

田中幸一氏

名産品を失くしたくない思いで父の跡を継ぎました。私達の福雀には、栄一の「一」と田中家の家紋の「鷲」を由来とする「弍鷲」の朱印や「一鷲作」の文字がある札が付いています。



田中父子作を示す札

地域の安全を祈って...

現代へのつなぎ手:地域の安全を祈る人々



新庄市の早坂彌七氏

交通安全の祈りを込めたお守りとして“福すずめ”を市に寄贈しました。



福雀はお守りになっていました!

福雀のお守り(ハナヤ花店さん提供)

僕達は新庄市交通安全母の会が作ってくれた交通安全のお守りです!

そして、復活へ!

4 福雀の復活

①福雀の構造と作り方(田中幸一氏提供資料を参考に)

福雀は頭部にヒメグルミ、胴体にオニグルミを用います。

- 1) クルミをブラシなどで洗って磨き上げ、ラッカーを吹きます。



ヒメグルミ

オニグルミ

- 2) 写真のような刃先の自作の工具で目をくり抜きます。



- 3) 編み棒で脚部を作り、胴体にあけた穴に付けます。



- 4) 頭部と胴体の接合部をヤスリで削って接着します。

- 5) 目に墨を入れ、口ばしを黒と黄色で着色します。

- 6) 山ツツジの枝で爪をつくり、ピンセットで、前足3本、後足1本を取り付けます。木の枝や板に固定して完成です。

福雀は縁起をかついで7羽・5羽・3羽が原型といわれますが、1羽の福雀や15羽以上の福雀も作られています。

②「福雀復活プロジェクト」



新庄の人々の生活を守りたい

新庄の安心・安全を守りたい

このプロジェクトの目標は福雀の歴史と存在価値を理解してもらうこと、新庄市民誰もが慣れ親しめる工芸品にすることです。私達が福雀を新庄市の「復活工芸」にします。

新庄の人々の願いが込められた福雀を守りたい!

福雀復活プロジェクト始動!



新庄市 雪の里情報館での展示



新庄北高定時制生徒が制作した福雀

山形新聞 2025年9月6日(土)



福雀復活へ高校生が力
郷土の歴史知り名産品再び

2025(令和7)年4月～2026(令和8)年2月までの「福雀復活プロジェクト」進行状況

4～6月	福雀の盛衰について学び、福雀を紹介するポスターと説明動画を作る。/福雀の作り手を探す。
7月	田中幸一氏の提供資料を参考にして地域の方々と福雀を実作。山形新聞の取材を受ける。
9月	2回目の実作。/雪の里情報館にポスターが展示される。/山形新聞に活動についての記事が掲載される。
10月	実作した福雀が雪の里情報館に展示される(「雪調と民藝～雪調コレクションより～」)。
11月	定時制労働感謝祭において来場者の方へ福雀をプレゼント(限定20羽)/最北地区高等学校社会科教育研究会支部研究大会で先生方に福雀作りを教える/雪の里情報館でのポスターと作品展示が12月まで延長。
2月	雪の里情報館「雪の里まつり」でのワークショップ 新庄市ふるさと歴史センターでのワークショップ

5 ご協力いただいた方々・参考文献など

雪の里情報館/新庄ふるさと歴史センター/新庄市民プラザ/ハナヤ花店さん/花の店こんたさん/田中幸一さん/水越啓一さん
『青年による副業品の研究—山形県新庄町の最上共生青年会を事例として—』木村裕樹 2020年/『故 小野恵敏君の霊に捧ぐ』岡司安正 1937年/
『かつろく風土記』新庄市教育委員会 1972年/『山形県大百科』山形新聞・山形放送 1983年/『新庄百選』新庄市企画課 1985年/
『新庄市報』新庄市 1978年1月25日/「絶やさぬ クルミびな ひとすじにつくり育てた「福雀」最上民芸」1975年3月12日付『山形新聞』夕刊

こちらをご覧ください
【説明動画】【福雀製作工程】



田中幸一氏提供資料を
カラー化しました!